

# A 1            2026 年度 入学 試験 問題

## 国                    語

(解答はすべて解答用紙に記入してください)

**注 意**

1. マーク・シートは、コンピュータで処理されるので、**B**または**HB**の黒鉛筆を使用し、極端に濃すぎたり、薄すぎたりしないよう、適度の濃さでマークしてください。(あまりとがった鉛筆はさけてください)
2. マークを訂正する場合は、消しゴムで跡を残さないよう完全に消し、消し屑をきれいに取り除いてください。  
 マーク記入例(受験番号 411095 の場合) ➡
3. マーク・シートは汚したり、折りまげたりしないでください。
4. 指示の通り、まず氏名・受験番号を記入するとともに、受験番号をマークしてください。
5. 解答用紙の受験番号記入間違いおよびマーク間違いの場合は、当該科目は無効とします。

受験 番号	4	1	1	0	9	5
↖	○	○	○	●	○	○
↑	①	●	●	①	①	①
	②	②	②	②	②	②
	③	③	③	③	③	③
	●	④	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	●
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨	●	⑨
			B			
			D			
			E			
			J			
			K			
			T			

Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

東西南北、さまざまな土地に生きる「普通の人々」の「日々の暮らし」を、民俗学は追いかけてきた。そのチク積<sup>①</sup>は膨大であり、ありきたりなものもユニークなものも含まれるが、どちらも生活事実として等しく存在価値がある。それらをきちんと眺めるなら、「日本」は(も)「広い」——「日本」は決して単一ではない——という事実が容易に首肯されるだろう。この列島上には、今日も多様な暮らしが繰り返り広げられ、それは人々と土地の複雑な来歴の結果である。同様に、しばしば「日本」と対比される「アジア」なり「西欧」なりといった世界各地も、きちんと観察していけば多様な暮らしが今も息づいているのであり、「日本は〇〇である」「アジアは△△である」といった類の言明は、あくまで論者の頭の都合による

ア 化は避けられないのだが、転変して止まない複雑な現実そのものではないということをしつかりと認識しておく。

能力の有限性という問題に立ち入ったので、本書が前提する人間観について一言しておこう。それは、「中途半端に賢い生き物」というものだ。ホモ・サピエンスと呼ぼうが万物の霊長と呼ぼうが、ヒトが自然に属する生命の一つであることは間違いない。自然法則は人間存在を貫いている。呼吸も摂食も排泄も、なしですませるわけにはいかないのが人間という存在だ。

その一方、ヒトは神のごとき全知全能ではないものの、無知無能というわけでもなく、相応の認識力と実践力をもって世界と対峙できる。ヒトは「中途半端に賢い」。わけでも、「ことば」という能力を媒介として世界を認識し、経験をチク積し、他者と交渉できることは、ヒトという存在のユニークな特徴だ。このことが、人の世の法や秩序をもたらし、芸術や宗教や思想を可能にしたわけで、人類文化史は「ことば」と共にあるとあって過言ではない。だが、そこに落とし穴もある。「ことば」は本質的にゲームの規則のようなヴァーチャルな存在で、その「ことば」に基づいて産み出された人間のルールには、自然法則のような客観的根拠が存在しない。これが大問題なのだ。

人の世のルールは、「自然」に制約されなすが故に自由に展開するが、人々に進歩をもたらすばかりでなく、時に、その生存を

疎外してしまう。先を急ぐと、その最たるものが「資本主義 capitalism」であり、それは人類に数多の利便をもたらしたと同時に、無数の「生き辛さ」を引き起こしている。ヒトは中途半端に賢いので、それなりの変化には対応できるのだが、それも「生き物」という「自然」の制約の範囲内でのこと。それに対して、「資本」は「自然」に制約されない仕組みであるため、ヒトのコントロールを飛び越えて際限なく暴走してしまう。そして、「資本」がもたらす果実の甘さを忘れられないヒトは、「生き物」としての自己をギセイ<sup>④</sup>にして、「資本」に邁進<sup>⑤</sup>してしまう。「生き物の時間」と「資本の時間」、二つの時間の分裂に、ヒトは「中途半端に賢い生き物」として迷い続けるほかない。これが、私たちの現在をとりまく根本問題なのだ。

<sup>⑥</sup>「生き物の時間」と「資本の時間」に引き裂かれる私たち。考えれば考えるほどクラクラしてしまいそうな難題だが、それでも、腹が減ったらメシは食わねばならないし、風雨を凌ぐには住まいを確保しなければならぬし、そうした暮らしを支えるには、きちんと稼がねばならない。日々はどこまでも続いていく。ならば、人々がこの俗なる些事にまみれた日常を手放さず、そこから広がる世界を捕まえていく手立てはないものか。そう考えたのが日本民俗学の創始者・柳田國男<sup>⑦</sup>(一八七五～一九六二)である。

日本民俗学が形を整えつつあった一九三〇年代半ば、柳田とその仲間たちは、大阪・懐徳堂を会場に、二五週連続ライブ「日本民俗学廿五回連続講習会」を開催する。その一発目である一九三六年九月一九日、連続ライブへの意気込みを語る柳田の講演タイトルは「政治教育の為に」だった。

懐徳堂の由来に就いては、皆様の方が私よりもよく知って居られます。是はこの大都市に於ける、平民の学問の発祥地なのであります。国中有数の家庭の子を集めて、未来の学者を養成しようという事業では無く、弘く一般の市民に時世を見るの明を与え、単に字を識り書を読む能力以上に、物の道理のわかる人を、出来るだけ多く造ることが、創立者の意図でありました。(『柳田國男全集』第二九卷、筑摩書房、二〇〇二、四九四頁。現代仮名づかいに変更した)

江戸中期の儒学者・中井竹山らによって支えられた懐徳堂が「平民の学問の発祥地」すなわち「弘く一般の市民に時世を見るの明を与える場所」だった、イ わざわざライブ会場に選んだのだ、そう語る柳田は、自らが率いる「日本民俗学」が「平民の

「学問」の後継者であることを高らかに宣言する。そして、「現代の政体」は「平民の学問」を求めて止まないのだ、という。

歴史は以前の世の中に於ては、明君賢相めいくんけんしょうの学問と認められて居りました。所謂草莽そうそうの士の地位も権能も無い者が、たまに其知識を修得しますと、往々⑩にして憂憤し、又危言しなければならなかったのであります。ところが今や時代は一変致しました。歴史を万人必須の普通学と定められた朝廷の思し召しは、予め⑪この現代の政体に備えられたのであります。個々の政策は技術であり、又各人の考案でありまして、是が相競い相争うのは、些すこしでも不思議なことはありません。それを判別し取捨するのが政治で、その権能は我々にも附与せられて居るのであります。はやく教育によって正しい判断をする途みちを授けない限り、悪人で無くとも屢々しばしば失敗します。選挙が肅正を必要とするなどは、言わば一国の学問の恥であります。地理が我々の今居る場所を意識せしめる様に、歴史は今日が如何なる時であるかを、明確⑫に工得くわくとくせしむべき役目を持つて居ります。(同前)

大正デモクラシーで普通選挙が実現された「現代の政体」においては、誰もが(この時点ではまだ男子のみだが)政治の選択に関わるようになる。だが、その選択の根拠は何だろうか。正しい政策を選別するには、「今日が如何なる時であるか」すなわち時世の認識が不可欠であり、それをもたらすのが「歴史」だという。つまり、「普通の人々」の「日々の暮らし」が現在に至った来歴を解き明かすガクモンが、「普通の人々」が普通選挙によって政治参加するための「万人必須の普通学」になるというわけだ。「政治教育のために」というタイトルの含意は⑬ここにある。民俗学は、単に古き良きを愛玩⑭する好事家の営みなのではない。生活事実を手がかりに、「現在」を照らし出し、その上に「未来」を展望する、市民としての私たちに不可欠な基礎教養なのだ。

このような初志を、その後の民俗学がどれほど貫き通せたかという点、まだまだ不十分だと筆者は思う。ただ、人々の来し方行く末を、身の回りの生活事実から見つめ直すという民俗学のスタンスは、悩み多き現代を生きる私たちにとつて、今なお大切な一つの「迷い方」かもしれない。この意味で、じつは民俗学は、歴史学や社会学や経済学や法学や……といった諸学が「学問分野 discipline」すなわち個別専門分野として存在するものとはちよつと違った位相に存在する。むしろ、「資料としての私(たち)」を起点に、個別専門分野化するガクモンを問い返し、問い改め続けようとするところに、人々の生活の「まるごと」を引き受

けようとする民俗学の本願があるのだと考えたい。民俗学はガクモンだがガクモンブヤではないのかもしれない。多分、それ  
でかまわない。

民俗学は、今を生きる私(たち)の迷い方——それも、身近で、雑多で、楽観的な迷い方だ。本書が伝えたい民俗学とは、そん  
な不可思議なガクモンである。

(菊地暁『民俗学入門』 ※出題の都合上、表記を一部改めた箇所がある。)

〈注〉 草莽の士 民間にあって官に仕えないでいる人。

問1 傍線部①「チク積」の「チク」に該当する漢字を含むものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 要害の地にチクジョウする
- 2 ガンチクのある言葉
- 3 他の派閥をホウチクする
- 4 人類がボクチクを始めた
- 5 チクリンの七賢

問2 二か所ある空欄 ア には同じ語句が入ります。その語句として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで  
番号で答えなさい。

- 1 単純
- 2 可視
- 3 表面
- 4 制度
- 5 言語

問3 傍線部②「中途半端に賢い生き物」の説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 自然に制約される身体で自然に制約されない資本を作り出すことにより、有限な能力の範囲を広げる生き物。
- 2 自然法則に左右される有限性を本質としつつ、言語を使いこなすことで能力を無限に拡大する生き物。
- 3 自然法則の大部分を適用されながらも、自然法則を逸脱できる領域を作って利便性をもたらす生き物。
- 4 生物として自然の制約を受けつつ、自分達の裁量で運用できる抽象的ルールを作り出せる生き物。
- 5 自然法則に従わざるを得ない一方で、有限な能力の範囲内で外界を認識し行動することができる生き物。

問4 傍線部③「ヴァーチャルな存在」とありますが、「ことば」が「ヴァーチャルな存在」だということの説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 「ことば」は人間独自のルールを成り立たせるのに必要であるが、個人により言葉遣いに違いがあつて客観性に乏しい。
- 2 「ことば」は自然法則が適用されない人間世界を円滑に動かすのに必要だが、逆に生存を脅かす恐れをはらんでいる。
- 3 「ことば」は法や秩序を作り自然に制約されない、人間世界の規則化に寄与するが、実体を伴っているわけではない。
- 4 「ことば」は資本を生み出し人類の発展に貢献するが、人間が生物として存在するということを忘れさせてしまう。
- 5 「ことば」は世界を適切に認識し自然の制約を一部打破することを可能にするが、「ことば」自身は明確な根拠を持たない。

問5 傍線部⑥「生き物の時間」と「資本の時間」に引き裂かれる」の説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

1 衣食住だけは最低限満たしたいという欲求を満たす一方で、資本を多く手に入れて豊かに過ごしたいという際限のない欲求をも持ちながら暮らしていかなければならないということ。

2 生物としての三大欲求を満たせばよいと考える一方で、生物的な欲求に縛られず自由に自分らしく生きたいと考える矛盾を抱えながら暮らしていかなければならないということ。

3 自然の摂理に従って生活していればよい時がある一方で、時に言葉と知性で世界に柔軟に対応する必要があるという生き辛さを抱えながら暮らしていかなければならないということ。

4 自然の制約を受けつつも世界の変化を認識し対処する一方で、自然の制約を免れつつも自身でさえ扱い切れない資本に左右されながら暮らしていかなければならないということ。

5 自然界にコントロールされる存在として生きている一方で、資本に対しては自身がコントロールする側に立って人生を切り開きながら暮らしていかなければならないということ。

問6 傍線部⑦「柳田國男」が著した作品を、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

1 遠野物語                      2 金色夜叉                      3 五重塔                      4 銀河鉄道の夜                      5 山月記

問7 空欄 イ に入れるべき語句として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

1 なぜなら                      2 というのも                      3 すなわち                      4 だから                      5 そして

問 8 傍線部⑨「往々にして」の意味として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 その場その場で
- 2 あちらこちらで
- 3 しばしば
- 4 やがて
- 5 たまさかに

問 9 傍線部⑩「工得」の「工」に該当する漢字を含むものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 フタエのまぶた
- 2 エドを厭い浄土を望む
- 3 敵の矢のエジキになる
- 4 凍傷で指がエシする
- 5 イチゴイチエの心を忘れない

問 10 傍線部⑪「ここ」の説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 正しい政策の選別することは結果的に庶民の来歴を明らかにし、同時に庶民の現在の世に対する洞察力を磨くことになる点で、民俗学は政治教育のためにも必要である、という論理。
- 2 庶民の来歴を知ることが今の世に対する正しい認識の獲得につながり、その認識を持つことで初めて正しく政策を選別できるため、民俗学は政治教育のためにも必要である、という論理。
- 3 歴史を学べば過去の庶民がいかに冷遇されていたかが理解でき、その理解に至って初めて現在の政策の良し悪しが判断できるため、民俗学は政治教育のためにも必要である、という論理。
- 4 上層民のみが歴史を学ぶことを許された時代は普通選挙ではなかったが、民俗学が開放された結果、万人参加の政体が確立したため、民俗学は政治教育のためにも必要である、という論理。
- 5 庶民の生活の歴史を知ることによって現代の政体の形成過程が理解でき、最終的には国民に時世を見極める眼を養わせることになるので、民俗学は政治教育のためにも必要である、という論理。

問11 傍線部④「ギセイ」を漢字で丁寧に書きなさい。

問12 傍線部⑤「邁進」・⑩「予め」・⑬「愛玩」・⑭「好事家」の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問13 傍線部⑧「日本民俗学」が「平民の学問」の後継者」とありますが、「平民の学問」としての「日本民俗学」のあり方は、次のように説明できます。

ウ というあり方。

この空欄 ウ に当てはまる、連続する二十七字の箇所(句読点、「」も一字として考えます)を本文中から探し、その最初の五文字を書きなさい。解答にあたっては、大きく丁寧を書くこと。

## II 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

中ごろ、なまめきたる女房、世の中たえだえしかりけるが、みめ、かたち、よかりける女をなむ持ちたりけるが、十七八なりければ、「これをいかにして、目安きさまにせむ」と思ふかなしさに、八幡注1に姫君とともに泣く泣く参りて、よもすがら、御前にて、「身は今2は、いかにても候ひなむ。この女を心安きさまにて見せ給へ」と数珠aをすりて、うちなげきうちなげき申しけるに、この女、参りつくより、母の膝を枕にして、起き3も上がらず、寝たりければ、暁方になりて、母申すやう、「いかばかり思ひて、かなはぬ心に、徒歩より参りつるに、わが申すやうに、よもすがら、神もあはれとおぼしめすばかり申し給ふべきに、思ふことなげに、寝 X るうたてさよ」とくどかれて、姫君おどろきて、「かなはぬ道に苦しくて」と言ひて、

<sup>5</sup>身の憂さをなかなかないはしみづ 思ふ心を涙みて知るらむ

と詠みたりければ、母も恥づかしくて、ものも言はずして、下向するに、七条朱雀のほとりにて、世の中に時めき給ふ殿上人、桂注2より遊びて帰り給ふが、この女を取りて、車に乗せて、やがて北の方にして、始終 Y けり。

<sup>b</sup>『ジツキン抄』

注1 八幡やはた……京都府八幡市にある石清水八幡宮

注2 桂かつら……景勝地として有名で、貴族の別荘が多かった。

問1 傍線部1「世の中たえだえしかりけるが」とありますが、その解釈として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 世情に疎くなっていたが
- 2 生活が貧しく、苦しかったが
- 3 夫婦仲は円満であったが
- 4 世間との交流はなくなっていたが
- 5 当世の評判は悪くなかったが

問2 傍線部2「いかにても候ひなむ」の文法的説明として適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 いかにても(副詞) + 候ひ(動詞) + なむ(助詞)
- 2 いかに(形容動詞) + ても(副詞) + 候ひ(動詞) + なむ(助詞)
- 3 いかに(形容動詞) + ても(助詞) + 候ひ(動詞) + な(助動詞) + む(助詞)
- 4 いかに(副詞) + て(助詞) + も(助詞) + 候ひ(動詞) + な(助詞) + む(助動詞)
- 5 いかに(形容動詞) + て(助詞) + も(助詞) + 候ひ(動詞) + な(助動詞) + む(助動詞)

問3 傍線部3「起きも上がらず、寝たりければ」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 八幡までの道のりがつらかったから。
- 2 願いは叶わないと諦めていたから。
- 3 願いが叶うことを確信していたから。
- 4 夢の中で神のお告げを聞こうとしていたから。
- 5 神の御前で安心することができたから。

問4 空欄 X に入る語として適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- |      |      |      |       |      |
|------|------|------|-------|------|
| 1 給は | 2 給ひ | 3 給ふ | 4 給ふる | 5 給へ |
|------|------|------|-------|------|
- 問5 傍線部4「おどろきて」とありますが、その解釈として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。
- |        |          |          |
|--------|----------|----------|
| 1 反省して | 2 おののいて  | 3 目を覚まして |
| 4 憤慨して | 5 憂いを感じて |          |

問6 傍線部5「身の憂さをなかなかなにといはしみづ 思ふ心を汲みて知るらむ」の歌には、娘のどのような思いが込められていますか。その解釈として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 「言は」と「石」の掛詞を用いることで、神への願掛けを熱心に行なおうとする思い
- 2 「しみづ」と「汲み」の縁語を用いることで、夫婦の今生の縁を願おうとする思い
- 3 言葉にならない我が身のつらさは、神にも伝わるはずがないという諦めの思い
- 4 自身のつらい心をきつと汲み取ってくれるであろう神へ、信頼を寄せている思い
- 5 言葉にできない我が身のつらさを、母だけが理解してくれていることへの感謝の思い

問7 傍線部6「やがて北の方にして」とありますが、その解釈として最も適切なものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 ただちに妾にして
- 2 そのまま妻にして
- 3 その後、妻にして
- 4 しばらく妾にして
- 5 すぐに養女にして

問8 本文の内容に合致するものを、次の選択肢から一つだけ選んで番号で答えなさい。

- 1 「女房」は自分と娘との今後を案じて、八幡まで徒歩で参詣した。
- 2 「女房」は「姫君」と結託して、自分の娘を八幡に連れて行った。
- 3 信仰心の薄いことを娘に見抜かれた「女房」は、恥ずかしくて絶句した。
- 4 七条朱雀のほとりに現われた「殿上人」は、八幡の神の化身であった。
- 5 八幡へ参詣したがゆえに、「女房」の娘は良縁を得ることができた。

問9 波線部 a「数珠」の古語としての読みをひらがな二文字で書きなさい。解答にあたっては、大きく丁寧に書くこと。

問10 空欄 Y には、形容詞「いみじ」の活用形が入ります。「いみじ」を適切な形に活用させて書きなさい。解答にあたっては、大きく丁寧に書くこと。

問11 波線部 b「ジッキン」を漢字二文字で書きなさい。解答にあたっては、楷書で大きく丁寧に書くこと。